

意見交換会実施報告書

開催日時	平成24年2月24日 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	大町市総合福祉センター 2階 大会議室
依頼者	大町の給食を考える会 代表 榎野 恵理
参加者数	約40名
出席議員	大厩富義（責任者）、勝野富男、眞嶋強志、平林英市、松島吉子、太田昭司、堀 堅一、二條孝夫、和田俊彦、高橋 正、岡 秀子、大和幸久、八木 聡（記録）、小林治男、中牧盛登（計15名）
意見交換会のテーマ	子どもの内部被ばく「ゼロ！」を目指してできることは？
意見交換内容 (要望提言等)	<p>今回は、大町の給食を考える会からのご要望により、上記をテーマとし、大町の給食を考える会の進行により意見交換を行いました。最初に、議員及び参加者が3班に別れ、班ごとに学校や保育園における給食に関すること、あるいは家庭等での対応などについて、意見を出し合い、その後、全体で議論しました。</p> <p>第1グループで出された主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の情報を知る。知識を得る。 ・ 給食の食材について自分たちで事前に測定することも大切。命にかかわることなので、第一優先事項ではないか。 ・ 費用は、東電に請求できないか。 ・ ゼロを目指すというが、ゼロにならない。具体的な表現の仕方が大切。 ・ ベトカウ効果を知ることが大切。 ・ 業者にも測定を義務付ける。 ・ 食前に測ることが大切。市独自の基準値を出してほしい。 ・ 国の基準値が高すぎるので、風評被害がでないのではないか。 ・ ドイツは、子ども4ベクレル、大人8ベクレル（記録注：これはドイツ放射線防護協会の推奨値である） <p>第2グループで出された主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口に入れる前に検査をしてほしい。しっかり数値を出してほしい。 ・ 産地を気にして購入している。事故後、肉魚、海草は口にしていない。 ・ 子どもを守るにはお金がかかる。 ・ 国が基準をはっきりさせることが大切。 ・ 福島の出荷時に測る。 ・ 内部被爆は避けられない。18歳以下医療費無料にすべき。 ・ センター方式も一つの方法。食材が大量に入るので業者に義務付けができる。

第3グループで出された主な意見

- ・ 計測器の機種が大切。より下限値が低いもので測定することが重要。
- ・ 計測器が高いから買えないのではなく、将来を担う子どものために市で購入することも大切では。
- ・ どのような状況なのか東電、国から情報がないので対応が決まらない。
- ・ チェルノブイリのようにずっと続くのではない。
- ・ 議会ですっと話し合うことが大切ではないか。
- ・ 議会で何かすることを求めるのではなく、市民が持ち上げることで議会が動く。
- ・ 物流の時点で阻止しなくてはいけない。消費者も生産者も被害者であるが、子どもと妊婦は守らなくてはいけない。
- ・ 物流の検査が、今後どの様な方向に行くのかわからない。
- ・ 地産地消が大切。
- ・ 実際に検査で検出されたときの業者に対する補償も考えていかなくてはならない。

全体を通してのまとめ

- ・ 正しい実際の情報がわからない。国から出されていない。市の基準値を思い切って下げることが大切。
- ・ 家庭での食事はどうなっているのか。家庭で苦勞している。
- ・ 測定器の機種が大切。急いで買うこともない。現状で何を選んだらいいのか。
- ・ 地産地消をすすめる。冬場の地元産の食材の確保が難しい。アイディアは？
- ・ 要求することと、実際の負担をどうするのか。市民から声が出てくるのが大切。
- ・ 現状では外部委託（月 11 万円）で測定しているが、測定器は長い目でみれば必要。
- ・ 事前の測定については、第一優先で進めるべき、業者の段階で測定すべき、センターの方が測定しやすい。実際の状況が市民にわかっていない。
- ・ 現実、内部被ばく「ゼロ」はありえないだろう。
- ・ 60歳を過ぎた人は、現地支援で食べてもいいでしょう。子どもは感受性が高いので、気をつけなくてはならない。チェルノブイリで実証されている。
- ・ 消費者も生産者も被害者だから、一緒に考えていくことが大切。業者への補償を考えるべき。
- ・ 給食食材の食前の測定は現実的にむずかしいのでは。内部被ばく「ゼロ」に向けた家庭での選択（知恵）を、みなさんに伝えてほしい。それが給食の事前測定につながってくるのでは。
- ・ 市内の青果市場に朝4時に野菜が着く。前日に到着すれば、測れるのでは。保冷庫の利用も必要。内部被ばくが心配で、魚を食べなくなった。降り積もった雪も子どもに食べさせない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査に時間がかかる。検査用食材を1キロ用意する必要がある。やるべき食材とそうでないものを分ける。市場で測ってもらうのがよい。定期的な検査は大切。 ・ 生産者の立場では、すべてのお米の測定をして出荷している。何もしていないで出荷されているような考えは間違っている。 ・ 国の基準値が高いと言っているが、下がってくる。それ以上を求めればお金がかかる。 ・ 生産者（農協など）も検査を受けている。暫定基準値に近い数値の農産物が流通しているとの認識は間違っている。 ・ 生産段階で検査しているので数値をみて判断したらどうか。ダブルチェックが必要では。 ・ 事前にチェックする方法が本当に可能か？教育委員会が今時点ではベストではないか。でも常にチェックが必要では。 ・ 検査など関係費用は東電に請求すべき。 ・ 農家から直接仕入れることができれば安心である。 ・ 4月から基準値が下がる。地産地消だからといって安心できない。すべて測るべき。ただ、テレビなどで数字だけを見て考えていたが、ここに来て生産者、議員などの意見が聞けてよかった。（参加の高校生）
<p style="text-align: center;">その他 特記事項</p>	

平成24年2月24日

政策調整委員会委員長 様

上記意見交換会責任者 大 厩 富 義 ㊟